

下関市立大学大学院におけるアセスメントポリシー

1. 学修成果の評価の目的

学修成果の達成状況を検証することによって、教育の方法や制度、取り組みについて不断に点検・評価を行い、教育の改善・改革に取り組むP D C Aサイクルを作動させる手立てとする。

2. 学修成果の評価の方法

下関市立大学大学院では、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3つの方針にもとづき、機関（大学院全体）レベル、教育課程（専攻・領域）レベル、科目レベルごとに別表に掲げる方法を用いて、学修成果の達成状況の評価する。その目的は、学修成果を3段階に分けて測ることによって、機関レベルに対応する全学、教育課程レベルに対応する専攻・領域、科目レベルに対応する教員・学生の、それぞれの段階で教育の不断の改革・改善（P D C Aサイクル）を行っていくことにある。

3. 達成すべき質的水準

- (1) 授業科目の成績評価については、シラバスに記載された評価方法と評価基準によるものとする。授業科目について達成すべき質的水準については、シラバスに表記するものとする。
- (2) 修士論文については、成績評価基準によるものとし、達成した質的水準は素点により表示される。
- (3) 学生は、在学期間、必要単位の修得、必要な研究指導、修士論文審査の合格といった基準を満たすことによって、領域のディプロマポリシーに定める能力を身に付けたと評価される。

<別表>

	A P (入学時)	C P (在学中)	D P (修了時)
大学院全体レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数 ・合格者数 ・入学者数 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位取得状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位取得状況
専攻・領域レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数 ・合格者数 ・入学者数 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位取得状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位取得状況 ・学位授与の審査は、修士論文の成果を修士論文審査基準で評価するとともに、学位授与の方針に基づく最終評価により個々に評価する。
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、レポート、プレゼンテーション、実技試験を組み合わせるなどして、各科目で設定している学習目標に適した評価方法を用いて各科目の学修成果を評価する。 ・大学院生の研究指導を明示するために、定期的な研究発表を通して継続的に評価する。大学院生を指導する複数教員が学生の発表についての助言を行い、学生指導に役立てる。 	